



# 会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

## 発行所

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会  
発行責任者 横地常広  
編集責任者 深澤憲治

〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号  
TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722  
ホームページ <http://www.jamt.or.jp>

- P1 2024年度 医療技術部門管理資格認定制度 集合研修（秋）開催報告  
P2～P3 全国「検査と健康展」2024 各地からの報告 第3回  
P4 石川県技師会・長崎県技師会が県と災害協定を締結  
P5 大規模災害時の支援人材育成講習会を再オープン&延長  
P6 季刊誌『ピペット』に寄せられた感想をご紹介します

## 2024年度 医療技術部門管理資格認定制度 集合研修(秋)開催報告

2024年11月23日（土）～11月24日（日）の2日間の日程で「2024年度 医療技術部門管理資格認定制度集合研修（秋）」が開催されました。この研修は8月3日（土）～4日（日）の2日間行われた夏の集合研修とともに、医療技術部門管理資格認定制度の必須研修となっています。この制度は臨床検査部門だけの管理者に留まらず、将来それぞれの職場で医療技術部門のリーダーや経営管理も担える人材を育成するために創設された認定制度であり、本年度も事前にeラーニングでの講義を受け、一定レベルの内容を習得、夏と秋に行われる集合研修を受けることで受験資格が得られます。

秋講習のテーマは「自院の経営環境分析スキルをマスターする」であり、神戸翼先生より経営環境分析のために必要なデータを集めて分析するための手法の講義受け、演習を2日間みっちり行うことで、自分の施設をとりまく内部環境・外部環境を分析する手法を身に付けます。

研修終了後はこのデータを持ち帰り、解決すべき問題についてレポートを作成し、提出することが求められます。今年度の受講生は17名であり、初めて扱うデータに戸惑いながらも懸命に課題作成に取り組みました。

この研修を受講して医療技術部門管理資格認定制度の認定試験に合格された方々は、病院を取り巻く環境に目を向け、検査室を運営していくことができるようになります。皆さんも来年度ぜひこの資格に挑戦してみませんか？認定制度に関する詳細は日臨技ホームページでご確認ください。



制度概要はこちら ← ↓ から  
ご確認いただけます。

<https://www.jamt.or.jp/studysession/center/system06/>

### 【集合研修（秋）内容】

- テーマ：自院の経営環境分析スキルをマスターする
- 1日目：11月18日  
『経営環境分析に向けて』  
『外部環境分析①PEST』  
『外部環境分析②地域』  
講師：医療技術部門管理資格制度 医療管理者資格認定制度  
審議会委員長 神戸 翼
- 2日目：11月19日  
『外部環境分析③まとめ』  
『内部環境分析①ヒト』  
『内部環境分析②モノ』  
『内部環境分析③カネ』  
『内部環境分析④情報』  
『認定試験に向けた課題レポートについて』  
講師：医療技術部門管理資格制度 医療管理者資格認定制度  
審議会委員長 神戸 翼  
(敬称略)

### 【研修中の様子】



# 全国「検査と健康展」2024 各地からの報告 第3回

## 山梨県

11月3日(日)、イオンモール甲府昭和店3階イオンホールにて「検査と健康展」を開催しました。昨年と同様に、午前の部で高校生企画、午後の部で一般来場者健康チェックを行いました。

事前募集した、山梨県内の高校8校計20名の生徒に参加していただき、臨床検査技師の紹介DVDを鑑賞後に、各研究班の検査企画を行いました。細胞診分野では標本を用いたスクリーニング体験、超音波研究班では「エコーで何が見えるかな?」と題し、水枕の中身を当てる体験、臨床化学はSMBG、微生物検査では手形の培地を用いて手の常在菌を例にした説明、輸血検査では自分の血液型を調べる体験、一般検査はコントロールを用いた定性検査と鏡検による沈査成分の観察などを行いました。また、若手技師による相談コーナーも設け、年齢が比較的近いこともあり、リラックスした、和気あいあいとした雰囲気の中で進路や学習、就職などの質問に答えました。保護者に向けた講習も行い、臨床検査技師の資格を取得するための必要な情報、進学先、就職先などの講話の後に少人数形式で質問に応じました。熱心に質問する保護者の姿に、進路選択・職業選択の一助となることができたと感じました。

一般来場者企画では、山梨県のゆるキャラ菱丸君が会場入口に立ち、宣伝活動を行いました。若い方からご年配の方まで、幅広い年齢層の方に来場していただき、血圧脈波測定・血糖測定・骨密度測定など、105名の方が検査を受けました。心筋梗塞をテーマにしたクイズも行い、来場者の方が真剣に取り組む姿が見られ、全問正解の方は大変満足した様子で会場を後にされていました。

今年は多くの研究班の協力があり、またどの研究班も工夫された企画を行い、非常に充実していました。来場された方に臨床検査に関する正しい知識を提供でき、病気予防と健康への意識を高めていただけた場となりました。

(山梨県臨床検査技師会 松山 亜紀子)

## 長野県

長野県は11月10日に青木島ショッピングパークで全国「検査と健康展」を開催しました。企画は超音波や顕微鏡検査、検体採取やピペット操作を行う臨床検査技師体験ブース、血糖測定や骨密度、もの忘れ検査を行う無料健康チェックブース、養成校の教員と学生、若手臨床検査



技師によるミニ講演会を含む学生進路相談ブースを設けました。総来場者数は約320名で、超音波91名、顕微鏡168名、検体採取81名、ピペット操作104名、血糖測定124名、骨密度(放射線技師)170名、もの忘れ検査44名、ミニ講演会と進路相談で33名の参加がありました。

臨床検査技師体験ブースではお子さんが白衣を羽織り小さな検査技師になって検体採取やピペット操作を楽しそうに体験し、超音波や顕微鏡検査体験では大人の方も興味を持ってわくわくした様子で検査を体験していただきました。無料健康チェックブースでは行列ができるほどの大盛況で健康増進への意識高揚に貢献できたと考えます。学生進路相談ブースでは、学生のみならず子供が養成校に通っているという保護者の方も講演を聴講してくださり、熱心に質問もしてくれました。来場者の方から「素晴らしい活動だ」「臨床検査技師いいですね」といったお声もいただき、有意義な活動になったと思います。

(長野県臨床検査技師会 金田 睦)

## 富山県

令和6年11月4日(月・祝日)まちなか賑わい広場グランドプラザで令和6年度「検査と健康展」in TO-



YAMAを開催しました。昨年と同様、体験コーナーや養成学校紹介を開催しました。体験コーナーとして、骨年齢・血管年齢・認知症検査・人体モデルでの採血・AEDの5部門を設置しました。臨床検査技師の仕事内容のパネル設置と、大型ビジョンで日本臨床検査技師会のDVD等を上映し啓蒙活動を行いました。

臨床検査技師学校3校(北陸大学・新潟医療福祉大学・岐阜医療科学大学)からは先生が来県され、自校紹介を行いました。また大学毎の紹介も大型ビジョンで放映しました。多くの学生に参加を希望していただけるよう、県内高校や市内中学校へチラシの郵送や配布を行い、昨年同様インスタグラムを使用しました。

開始から骨年齢や血管年齢には老若男女問わず多くの方が参加され、参加者の列が途絶えることはなかったです。認知症検査、人体モデルでの採血・AED体験も多くの方が参加されました。採血に関しては、臨床検査技師が採血をしていることを話すとまだ知らない方が散見されました。まだまだ臨床検査技師の認知度は低い印象です。今後も「検査と健康展」を通して、臨床検査の正しい知識と普及・啓蒙を行い、国民の健康づくりの意識の高揚を図りたいと考え活動していきます。

(富山県臨床検査技師会 辻田 由加利)

## 石川県

石川県羽咋市LAKUNAはくいで全国「検査と健康展」を開催しました。市民公開講座では令和6年1月に発生した能登半島地震を踏まえ、「長時間の避難生活、エコノミークラス症候群にどう対応する？知っておくべきこと～令和6年能登半島地震から～」と題して、能登で診療にあたられている心臓血管外科の先生にお話ししていただきました。地震発生から現在までの状況、また今後気をつけていくべきことなど、とても興味深い内容でした。エコノミークラス症候群の予防体操なども紹介していただき、参加者皆で体操も行いました。

臨床検査技師体験コーナーでは、「果物ゼリーの中身を見てみよう！」「はたらく細胞を見てみよう！」と題して、臨床検査に関する認知向上を目指しました。子どもから高齢者まで幅広い年齢層に参加してもらえ「検査と健康展」になったと思います。顕微鏡体験やエコー体験を通して、地域の皆様と臨床検査を通して交流できたと思います。今後も臨床検査技師について知っていただく契機となるよう活動していきたいです。

(石川県臨床衛生検査技師会 米澤 文枝)



## 愛知県

令和6年11月17日(日)アイ・モール三好(イオン三好)にて、全国「検査と健康展」を開催しました。臨床検査体験コーナーでは血液細胞を観察するとともにそれぞれの細胞の働きについて学び、超音波検査コーナーでは、実際にプローブを操作してもらいフルーツゼリーやキャラクターの入った寒天を使って、どのように描写されるのか観察していただきました。最初は迷いながらも描写される画像を不思議そう眺めていたものの、キャラクターの絵が見えると笑顔になり、おおいに楽しんでいただけました。その他にもジュースを対象に尿定性検査をするなど、臨床検査技師のお仕事について多くの方に興味を持っていただくことができました。

また、無料健康チェックコーナーでは骨密度測定、嗅覚チェック(認知症)の簡易テストを行い、臨床検査技師による検査説明とともに日常生活における改善ポイントの指導を行いました。来場者は延べ448名と、実務に参加された21名の会員も一般市民の方とのやりとりを楽しみながら行うことができました。

今後も臨床検査について正しい知識とその普及・啓発活動とともに、一般の方とのふれあいの場を大切に、公益事業に取り組んでいきたいです。

(愛知県臨床検査技師会 和出 弘章)



## 静岡県

静岡県臨床衛生検査技師会は、2024年11月16日(土)に静岡市清水区エスパルスドリームプラザにおいて「検査と健康展」を開催いたしました。近隣施設にポスターを配布したこともあり、多くの方に参加していただくことができました。行列ができるブースもあり、延べ800名近くの来場者がお見えになりました。来場された方々は自分の興味ある検査を体験したり、普段あまり聞けないこともじっくり質問する方も多く見られ、検査に対する関心があることが実感できました。担当するブースで検査とその説明を行っている検査技師はプロフェッショナルとして丁寧な対応を心掛け、来場者の方が検査に興味を持つきっかけになっていくと感じました。

医師相談コーナーでは静岡県立総合病院の島田俊夫医師にお越しいただき、来場者の検査結果に対する説明から健康へのアドバイスを行っていただきました。

「検査と健康展」を開催したことによって、来場者に対し臨床検査技師という職種を知っていただく絶好の機会になったと実感しています。また、来場した子どもたちが将来、臨床検査技師という職業を就きたい職業の一つとして選択肢に挙げてくれる機会となってくれることを願っています。

(静岡県臨床衛生検査技師会 村越 大輝)



## 三重県

令和6年11月17日(日)に鈴鹿医療科学大学にて全国「検査と健康展」を開催しました。スタッフは三臨技会員36名と、鈴鹿医療科学大学、四日市医療看護大学の学生および教員14名の総勢50名で行いました。

検査内容は、骨密度測定、血管年齢測定、認知症プログラム、頸動脈エコー、簡易ヘモグロビン測定を行い、希望者には検査説明コーナーを設けて詳しく説明を行いました。大学の学生の方にも学校紹介や顕微鏡を使った体験コーナーを設置し、会場のお手伝いをしていただきました。また昼休みを利用して臨床検査技師に関する講演会を行いました。技師による臨床検査技師のお仕事紹介や健診の重要性、さらに学生による臨床検査技師を目指した自分の将来や希望を講演してもらいました。参加者は約150名で多くの方にすべての検査を実施することができました。このイベントを通して臨床検査の重要性と健康に対する意識の向上が得られたと思います。また新しく作成したポロシャツの背中には『わたしたちは臨床検査技師』とプリントされており、臨床検査技師の知名度アップにも貢献できたと思います。

(三重県臨床検査技師会 林 豊)



# 石川県技師会・長崎県技師会が県と災害協定を締結

## 石川県と石川県臨床衛生検査技師会との災害時協定

石川県臨床衛生検査技師会 会長 滝野 豊

石川県臨床衛生検査技師会（石臨技）は、この度、石川県と「災害時における支援活動に関する協定書」を結んだ。この協定は、石川県が行う支援活動に対する石臨技の協力に関するものである。実際に被災した県での経験が活かされた内容になっている。

「災害時における支援活動に係る費用弁償等に関する覚書」には、臨床検査技師の費用弁償、検査試薬等の実費弁償、扶助金について記載され、「災害時における支援活動に関する協定書実施細目」には、支援活動の報告、事故報告、物件損傷報告、費用弁償等の請求、支払に関して7つの様式が準備された。災害時における支援活動においては、負傷・疾病または死亡した際の対応も考慮されている。

令和6年1月1日に発生した令和6年能登半島地震から1年が過ぎたが、9月には令和6年奥能登豪雨も発生し、復興は依然として進行中である。むしろ、能登からの人口流出が進んでいるのが現実だ。しかし、能登で暮らしたいと望む人々がいる限り、支援を継続する必要がある。防災機能を備えた地域づくりを推進していく必要がある。復興を進めつつ、仮設住宅での生活を続ける住民の健康を保護するための取り組みも継続していかねばならない。

## 長崎県との災害協定が約10ヶ月を要し締結されました

長崎県臨床検査技師会 副会長 平田 哲也

### 【経緯】

令和6年早春に災害協定を締結した都道府県は群馬県、徳島県、宮城県、山梨県の4県であり長崎県臨床検査技師会（長臨技）も本格的な活動を3月から開始しました。同時期には約40%の地臨技が整備を終えた「災害支援マニュアル（＝長臨技災害マニュアル）」も完成していない状況であり早急な対応となりました。

当初は「災害支援マニュアル」を完成したうえで長崎県との災害協定の話し合いを進める方針でしたが板橋先生のご助言により同時進行することに舵をきることにしました。

### まずは長崎県庁へ

長臨技会長、副会長の3名で令和6年3月15日に医療政策課へ挨拶に出向くことから始まり、以後は下名が担当となり話し合いの場を設けました。4月には4県の協定書をベースにしたものを作成し長崎県に提出し検討をお願いしました。

### 長崎県からの返答は？

前向きなお返事をいただきましたが、活動する技師には医師の指導監督が必要なため長崎県医師会の協力を協定書に盛り込むことを加筆して欲しいとの返答をもらいました。

### 長崎県担当者とは下名で医師会を訪問

長崎県の意向を反映した協定書を持参し医師会に「意見照会」をお願いしました。

### 医師会の返答は？

協定書にある「医師会の協力」と「技師への指導監督」は、医師会の担当するものではないので削除して欲しいとの要望があり、長崎県は「医師会の同意が得られないと協定は無理ではないか？」との見解でした。

### 長臨技として

長崎県と医師会の意見が相違するため、板橋先生に相談したところ「長崎県からJMATに所属する医師と技師をチーム編成する指示を出してもらわなければ活動はできないため、その認識を持ってもらうように話を進めたらどうか？」とのご助言をもらいました。また、他県のように二者間（行政と技師会）協定を進めたらどうか？とも助言をもらいました。

### 長崎県と改めて話し合い

担当者には長崎がリーダーシップを取ってもらいチーム編成することは分かっていたいただきましたが、上司の方にご理解してもらうために能登半島地震での活動や日臨技が作成した資料、他県の協定書などを提供し活用してもらうことにしました。その後、担当者のご尽力により医師会の要望に沿った協定書を作成し医師会に再度「意見照会」をお願いしました。

余談となりますが、ここで話し合いがまとまらない場合は板橋先生とともに再度長崎県に訪問する予定でした。

### 医師会からの返答

約1ヶ月後に「意見照会」に問題はないとのご返事をいただき、万が一の場合は伴に頑張りましょうと返答をもらいました。

### 長崎県の対応

医師会からの返答を受け12月中に技師の保険加入手続きを済ませ12月末には協定書に押印して欲しいとの連絡がありました。

### 令和7年1月6日より協定がスタート！

両者の押印を済ませ令和7年1月6日から、協定がスタートしました。残念ながら知事と長臨技会長による締結式は開催されませんでした。年度内に締結が完了し喜ばしく感じております。今後は、「災害支援マニュアル」の整備を進めていく所存でございます。

### 【最後に】

行政へのアプローチは担当者が十分な知識を持っていること。また、協定締結の進捗が進まなかった場合は受け身にならないことが大切だと感じました。困ったら日臨技に相談することも重要となりますが、胸襟を開いた話し合いを重ねることもお忘れなくご対応ください。

# 大規模災害時の支援人材育成講習会を再オープン&延長

大規模災害時には会員施設における臨床検査機能を維持することの他、被災地の求めに合わせてJ-MAT（日本医師会）や日本赤十字等と共同し、活動できる臨床検査技師が必要となります。いつでもどこで起こるかわからない災害に備え、全国的な支援人材の育成を目的とした大規模災害時の支援人材育成講習会（その1）（その2）を継続的に受講いただけるようになりました。

いずれも会員専用ページからWebで受講できますので、是非、ご参加ください。受講資格・受講方法等は共通です。

- 受講資格：日臨技会員  
 受講料：無料  
 点数付与：生涯教育研修制度 基礎教科 20点  
 申込・受講方法：会員専用ページより①事前参加申込み  
 → ②事前参加申込済一覧から受講



## 大規模災害時の支援人材育成講習会(その1)

目標：臨床検査技師として災害対策本部で手伝いができる知識習得

- 内容：1. 災害医療概論
- 1) 災害医療概論（災害とは / 災害医療の原則：CSCATTTについて）
  - 2) ロジスティックスとは
2. 情報管理
- 1) 災害時の情報管理①（EMISについて）
  - 2) 災害時の情報管理②（J-SPEEDと災害診療記録について）
  - 3) 通信確保の重要性（衛星電話の使い方）
  - 4) クロノロジーとは～災害時の活用例～
3. 資源管理
- 1) 災害時の資源管理について

## 大規模災害時の支援人材育成講習会(その2)

目標：臨床検査技師の災害支援人材として活動できる知識習得

- 内容：1. 災害医療マネジメント
- 1) 我が国の災害医療体制・都道府県との関係
  - 2) 日臨技災害対策規程及びマニュアルの内容（組織・連絡体制・関係団体など）
  - 3) 都道府県臨床検査技師会における災害時用のGmailとその情報管理について
2. 被災地における情報収集
- 1) 被災地の地臨技による会員施設の情報収集
3. 被災地外：支援の在り方
- 1) 支援側の心得
  - 2) 実災害派遣で必要な事項：業務調整・ヒト・モノ・カネなど
4. 本部運営
- 1) 都道府県臨床検査技師会における本部立ち上げから運営について
  - 2) 都道府県の災害対策本部での活動について
5. 災害支援活動
- 1) 物的支援、会員施設への人的支援のスキーム（臨床検査技師を被災地へ派遣することの職場での理解）
  - 2) 避難所について（実績紹介） SOSの発信について
6. 日臨技と地臨技の情報共有
- 1) 日臨技vs地臨技の訓練紹介（説明）  
（シミュレーションによる被災地域の情報収集のあり方：ニーズ・情報発信）

## 当会では国民の皆様にも臨床検査技師の存在をもっと知っていただくため 季刊誌『ピペット』を発行しています。

2024 秋号 (vol.45) にも読後感想として、たくさんの感想や応援メッセージをいただきました。

医療現場で働く会員の皆様にも励みにしていただきたく、寄せられたメッセージをいくつかご紹介いたします。



- インタビューを読んで臨床検査技師と医師の連携がスムーズに行われることで、自分たちの健康が守られているんだと感じた (秋田県・男性)
- 今では検査を受けるのが仕事のようにっていますが、検査をしておくとすっきり安心できます (静岡県・女性)
- 検査の詳細などを知れると心構えや安心ができるので、もっと臨床検査技師さんとコミュニケーションできる場が増えたらいいなと思いました (広島県・女性)
- 臨床検査技師という白衣を着て検査室で仕事をしている人と思っていましたが、身近で接する機会のある職業なのだと知りました (大阪府・女性)
- 新型コロナのワクチン接種や災害支援活動など、より患者に近い存在になってきていますね (兵庫県・女性)
- 検査技師の方の経験談などを訊いてみたい (埼玉県・男性)
- 大型店舗の催事でたまにいただきました。このような冊子を見るのは初めてで、今まで深く考えずに人間ドックを受けていたことを反省しました (栃木県・女性)
- 超音波検査を受けて、病気が良くなっていることが分かり嬉しかった (埼玉県・女性)

『季刊誌ピペット』を配布いただける施設を募集しています。冊子・送料は無料です。イベント等での単発の配布も承ります。

ご協力いただける方は右のURLから「配布協力施設登録申込用紙」をダウンロードし、ご記入の上、当会事務局までFAXまたはメールでお申込みください。

過去号をご覧になりたい方はQRコードからも閲覧いただけます。

<https://www.jamt.or.jp/books/pipette/>

Fax: 03-3768-6722

mail: [pipette@jamt.or.jp](mailto:pipette@jamt.or.jp)



「 (編集後記) 季節は立春、暦の上では春です。今年は124年ぶりに2月2日が節分です。ピンときませんが2月3日が豆まきという先入観ではいけないようです。今回の会報JAMTは「検査と健康展」報告として山梨県など7県の模様を掲載しました。各県趣向を凝らした内容で一般市民との貴重な交流の場となっています。ほか災害協定締結情報、ピペット読者からの感想など盛りだくさんの情報をお届けしました。次号もお楽しみに。」

(植木)